

## 第12期調布市生涯学習推進協議会（第4回）会議録

1 日時 平成28年6月30日（木） 午後2時～3時40分

2 場所 調布市文化会館たづくり 9階 研修室

3 出欠

(1) 出席 生涯学習推進協議会委員（敬称略）

（副会長）矢幡 秀治 小川 芳昭 後藤 淳子 佐野 洋 芹澤 充子 高木 直  
宮寄 武 森山 朱美

(2) 欠席 生涯学習推進協議会委員（敬称略）

大森 秀子 濱松 章洋

(3) 事務局

田口生活文化スポーツ部次長 中島生涯学習交流推進課長  
神田生涯学習交流推進課長補佐

(4) 傍聴者

2名

4 議題

事務局より、生涯学習推進協議会条例第7条の定足数を満たしており会議が成立していることを報告。傍聴者2名であることを報告及び入室。本協議会の会議録作成のため録音することを確認。配付資料の確認（資料1及び2、当日配布資料「席次表」、「平成27年度事務報告書抜粋（未定稿資料）」）。

(1) 検討協議事項

平成27年度の大学連携に関する事業実績について

（資料1 平成27年度大学等との連携に係る調査結果報告書）

(2) 報告事項

平成28年度の生涯学習交流推進課の事業について

（資料2 平成28年度課別予算（案）の概要）

(3) その他

事務連絡

○矢幡副会長 本日は、大森会長がお休みということで、私が進行を務めるということで始めさせていただきます。ただ今から第4回生涯学習推進協議会を開会いたします。今年度は、生涯学習の事業を振り返るということではありますけど、皆様の闊達なご意見、色々なご経験・様々な角度からのご意見をいただきながら、点検をお願いいたします。本日は、議題に関する説明のために関係職員の出席を求めています。あらかじめご了承ください。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

「議題 (1) 検討協議事項 平成27年度の大学連携に関する事業実績について」事務局から説

明をお願いしたいと思います。

○事務局（中島課長） はい。資料1になります。この調査は、市の各セクションに対して行ったものになります。現在、近隣7大学と協定を結んでいるところがございます。一部附属の小・中・高ということで入っております。また、その他大学専門学校というものも入っております。平成27年度の実績と平成28年度の予定ということです。1ページからは、調査目的から合計事業件数まで調査全体の概要を示しています。2ページから8ページまでは、平成27年度の連携実績について大学別、内容別、事業実施の際の主体（依頼関係）別などに集計、まとめたものとなっています。9ページから24ページまでは、その事業の詳細について大学別にまとめたものとなっています。25ページから36ページまで、現在、始まってはおりますが、平成28年度に予定している連携事業の大学別の一覧となっています。最後、37・38ページは、協定7大学のうち、明治大学・桐朋学園大の附属の小・中・高との平成27年度の事業実績と平成28年度の事業予定ということでまとめてあります。

それでは、ザッとですが、中身を振り返っていきます。

まず1ページ。事業件数を5年間、示したものとなっています。平成27年度は、222件ということで、前年度から、40件以上増加したということになっています。平成27年度は、調布市の市制施行60周年ということで、冠を付けた事業や新規の事業も多く、件数に跳ね返ったと思います。全体で222件でしたが、2ページの（2）大学等別連携実績を見ると、近年では、1位電通大、2位白百合に変動はありません。ただし、桐朋学園は大学と短大の分を含めると件数はトップになっています。協定7大学以外の事業件数は69件ですが、学校数では50を超える大学の数となっています。続く（3）連携内容別実績では、学校教育への支援、生涯学習の推進が多くなっています。

3ページ上の方、（4）連携内容別の詳細を見ると、学生の受け入れ（インターンシップ）での連携が多くなっています。（5）依頼関係では、近年は大学から市へ依頼をいただく件数も伸びてきています。大学側も地域貢献、地元との関わりを強く打ち出している傾向の表れではないでしょうか。

続いて4ページ、（6）庁内所属別連携実績では、部の単位でまとめてありますが、生活文化スポーツ部が86件と一番多く、芸術・文化・スポーツ・生涯学習といった分野を所管する課が多く集まっている部であり、非常に大学とのつながりも多いと言えます。（7）大学別連携内容は、8ページまでとなっています。

9ページ、平成27年度の大学別連携事業実績から、協定締結7大学の特色あるものを見てみると、大学別に振り返りさせていただきますが、「電気通信大学」とは、平成15年から協定を結んでおりますが、市長が経営協議会委員などの職についていることなどから、深い関係があると感じております。また、職員採用試験の際の会場として教室をお借りしています。施設関係は、連携の中でも大きい位置を占めるのではないかと思います。続いて10ページ。電通大は、2018年に創立100周年になるということで、市としても行事などの実施に際し、協力体制を取っていくとしています。昨年度は、「電通大通り」に2018年の大学創立100周年を記念した

街路灯フラッグ掲示の協力をさせていただきました。10ページ下の方にいきますと、施設使用では、市民体育祭の会場としてサッカー場、テニスコートなどをお借りしています。

続いて「明治大学」。11ページからですが、全体で件数は多くないのですが、附属の中・高がありますので、そこの連携実績も載っております。市内には、野球場がかつてありましたが、今は、調布中学校の北側の日本航空のグラウンドの跡地にできたこの中・高との事業が増えてきています。総合大学ということから、今後、連携できる分野も幅広いと思われれます。全国的に連携事業を実施していると聞いています。今後、ぜひ期待したいと思います。

続いて12ページ「桐朋学園大学」。グリーンホール、せんがわ劇場などで展開している文化・芸術面での協力内容は、専門分野の大学ならではの連携と思っております。60周年記念ビデオへのオーケストラ出演、い〜なか交流フェスタ in 調布での演奏、姉妹都市木島平村での催しでの早乙女姿で参加など、演奏関係では、実演による協力です。文化・コミュニティ振興財団と別に音楽の協力協定を結んでおりますので、練習風景など無料で公開していただいたりしています。14ページ中ほどに、成人式実行委員会への参加、公民館事業への参加もあります。

その下、「白百合女子大学」です。14ページ下に、災害時における協力に関する覚書締結とあります。最近では、熊本地震もあり、このような動きは活発になってくると考えられます。変わったところでは、仙川地区における官民協力してのブランド力向上への取り組み、中身は、せんがわ劇場でのリーディング劇、親子参加の催しを行ったりです。教諭志望の学生さんも多く、子ども支援の事業が多くなっています。保育園での観察、保育実習や緑ヶ丘小学校での事業などもあります。

16ページからは、「東京外国語大学」です。17ページにまいりますと、国際理解の講演会の講師出演といった形で、調布市の国際交流協会との関わりも深く、国際的な面での活動も多くなっています。

同じく17ページ「東京慈恵会医科大学」です。ここは、医科大学ということで特徴がありますが、災害時の医療体制に関する協力関係での動きがあります。

18ページは、「ルーテル学院大学」。下から4行目、子ども家庭支援センターすこやかで実習の受け入れをしているというのは、特徴的です。

「協定締結7大学以外 その他の大学等」です。学識者として教授などに各種の委員会・審議会委員に就任していただいたり、講演会の講師をしていただいたり、大学側からは就業体験（インターンシップ）の依頼が多いようです。19ページ下「城西国際大学」ですが、2010年から提携していた日活芸術学院は2013年閉校しましたが、城西国際大学メディア学部が、引き継いで商店会のCMの制作をしているのが、変わったところです。

このようなことで、平成27年度は222件の事業が行われました。かいつまんでですが、概要ということで報告させていただきました。私からは、以上です。

○矢幡副会長 ありがとうございます。それでは、皆様からご意見・ご質問など、ございませんでしょうか。

○芹澤委員 1ページの合計連携事業数が増えているという表ですが、色々な事業をされてい

て数字が増えてきているというのは良いことなのですが、もう一つの見方として「質」の部分で良くなっているとか、増えているとか、「質」を見るような指標なり、コメントはあるのですか。

○事務局（中島課長） 当日配布資料の未定稿の事務報告書という資料ですが、市では各種事業、事務事業を数値的にまとめて出しています。毎年夏場に事業の振り返りをするということで、現在は、外部の方を入れたりはありませんけれども、各種施策の評価をする場面があります。私どもの生涯学習についても31ある市の施策の一つとして行っています。生涯学習というのは、私どもの課だけでやっているものではなくて、スポーツ・芸術・文化を始め、色々な部で行っている事業が、大きなくくりの中では「生涯学習」という分野に該当していると言えます。しかし、他の課では違う目標をもって事業を組み立てているので、必ずしも生涯学習とは言えないものも、突き詰めていくとあるかもしれません。

○芹澤委員 4ページのところに、「庁内所属別連携実績数」というのがありますが、それぞれの組織が縦割りにされていることが多い。年度に調査をして、たまたまこういう部署がこういうことをしていると分かった222件という数字なのか、それとも、生涯学習がリードをして大きなビジョンの下にこうした方向性を出して実施させてきた結果の数字なのか、どうなのでしょう。

○事務局（中島課長） この調査は、もう既に何年もやっている調査ですので、大学との連携というのは私どもだけでやっているわけではなく、色々な所でやっている連携をまとめました。私どもがリードを、ということで各課にやらせている形での実績という訳ではありません。

○芹澤委員 今までされたことは良かったと思うし、数字が伸びているのは良いことだし、色々な大学と関わりを持ちながら調布市として何かを変えていくためには、調布市として同じ方向・ベクトルがあれば、より相乗効果があり、影響力が大きいのではないかと思います。

○事務局（田口次長） 「市は、縦割り」という話があったのですが、基本計画の中では「横断的な」ということで、各部にまたがって一緒に連携していくというのはご承知のことだと思います。そして、そのような体制ができつつあります。尺度として、「質が良い・悪い」というのは、難しいことなのかなと思います。今は、どういうことが大学とできるのかな、ということで模索しながら広げてきていますが、ある程度、限界だということになれば、そこで振り返り等していかなければなりません。現在は、どんどん広げてきている状況。芹澤委員が言われているように、今後、「質」ということになると思います。より市民に還元できるような形で実施していければと思っています。

○芹澤委員 市内には、大学がいくつあるのですか。

○事務局（中島課長） 市内には4つ。

○芹澤委員 それを超えて、色々な所とやろうと。それは、向こうから来たのでやろうということなのか、こちらからお願いしてやろうということなのか。

○事務局（田口次長） どちらもありますね。既に市外の大学とも始めていますけども。……

○矢幡副会長 ありがとうございます。せっかくアンケートをまとめたところで、まとめたものを今度は市の方で役立てていただくのが一番いいのではないかと、という意見だと思

ます。ぜひ、よろしくお願いいたします。

○事務局（中島課長） 今の意見に補足ですが、年に1回まとめたものを市の週1回行っている会議に報告して、各課に情報共有しています。今年1月にこの協議会でも報告しましたが、大学との事業に関する調査、各市町村に対して行った調査ですが、こういった取りまとめをしていることから、他に比べて調布市は進んだ取り組みを行っているのかなと思います。今、出たようにどのように生かしていくのか色々と方策があるかと思いますので、年1回の評価の場でも色々と意見が出ておりますので、こういった会議でもこれを踏って、活用の方法だとかを探っていきたいと思います。

○事務局（田口次長） 電通大は、機械工学、ロボットみたいなことのイメージがあるのですが、実際には色々なことをやっていらっしゃると聞いておりますが。

○宮寄委員 そうですね。色々な先生がいらっしゃいますので、ロボットというか情報系の先生の方が、数としては多いですね。セキュリティ関係でご心配なことがあれば、それについて説明できるような先生はいらっしゃいますし。

○矢幡副会長 宮寄委員から話が出ましたけれど、電通大から見て行政との連携というのは、どう思われているのかなと聞いてみたいのですが。

○宮寄委員 そうですね。やはり調布にありますので、調布市との関わりが一番深いのですが、三鷹とか府中とか近隣の市町村からも声を掛けていただいて、三鷹には「ネットワーク大学」というのがあるのですが、その講師の派遣とかをしたり、渋谷区の教育委員会の方からも依頼があって、渋谷の駅のそばに「ハチラボ」という科学館があるのですが、そこに電通大の先生が、夏休みの子供向けの講座を何コマか持ったりしているのですが、そういうようなつながりがあります。大学としては、地域に限らず、そういう交流は広げています。その中でも、調布市とは、長くお付き合いいただいているという形になっています。

この一覧表を見て、社会教育への協力という箇所があり、その他の大学としているようですが、これはどういうふうにされているのですか。私を窓口にして、というやり方もあるかと思いますが、機能としてそういうお話をいただいたことがないものですから……。

○事務局（中島課長） 大学と行政のつながりというよりも、個人とのつながりから発展しているケースもあるようです。

○宮寄委員 パイプができているという。

○事務局（中島課長） 他の市町村の調査を見たりすると、何々研究室の先生個人とつながっているという関係も見とれます。

○宮寄委員 効率的にやるという窓口として、社会連携センターを使っていただいて、学内の先生に色々ご紹介するとか、そういうことができる訳なのですけれど。

○事務局（中島課長） 意外と市町村でも、私どもみたいな窓口課があつたりしますけれども、どこの大学と何課がつながっているというのは、十分把握し切れていないといったことがあるみたいで、こういう調査を投げてみてようやく知ったこともあるような感じですね。行政側だけではなくて、大学も担当の窓口が知らなかったということが意外とあるみたいですね。

○矢幡副会長　これは、アンケートの結果を見て、社会教育との関係もあるよということであれば、そういう部署との関係をつなげることもできるのではないかなということで、ぜひ、お願いしたいと思います。

○小川委員　「社会教育の支援」って中身的には何ですか。どういうことをおっしゃっているのですか。

○事務局（中島課長）　生涯学習系の講座・講演みたいなのが多いのかな、というところでしょうか。

○小川委員　「生涯学習の推進」というのが別に項目のところにあるのですが……。そもそも「支援」っていうのは、どちらがどちらを「支援」するのか。市が大学を支援するのですか、大学が市を支援するのですか。

○宮寄委員　大学が支援する側だと思います。

○小川委員　「社会教育」は。

○矢幡副会長　学校教育に入るのかもしれませんが、家庭教育みたいな講座とか、そういうものも入るのでしょうかね、「社会教育」って言うと……。

○高木委員　これを見る限りだと、例えば、担当課・公民館みたいな所は、社会教育事業を担当しているから、公民館の事業だと「社会教育」事業というふうな位置づけかなと一読していた中では見ていたのですが。公民館は、教育行政の中の社会教育事業を担当する部署という考え方でいくと、社会教育の支援という中で、社会教育は広い分野なので、どの分野でというと、家庭教育講座という名称が入っているものもありますので、割と幅広いのかなという……。

○矢幡副会長　そういうと、同じようなことですがけれども、佐野委員にもお伺いしたほうが良いと思うのですがけれども。大学として行政と連携を持ったことで何かできたということはありませんか。

○佐野委員　はい。本学（東京外国語大学のこと。）は、（調布）飛行場の隣で府中市になるのですが、その地域における関わりを深めることが大学としては第一点目にあると思います。電気通信大学は工学系の大学ですが、本学は文系で語学にかなり特化した大学になります。そうしますと、大学で教育・研究している実施内容から関わりが何らかの形であるということを探しているというのが、大学側から見たことです。本学は、調布市と府中市、両市から連携の事業等をいただいておりますが、本学の特徴としてはおそらく外国につながる子供たちの教育支援といったような形が特徴的なものとしてあります。府中市とは、そのような関わりもございまして。それと、こういう時代ですので広く一般向けの情報提供に関係するようなこと、この表の中にもございましたが、本学の教員による講演等ございましたが、これも中東関係のご専門の先生の講演だったかと思っております。そうした海外の現代的な時事に関するもの等があるかと思っております。大学にとっても教育・研究内容で地域に密着するというのが第一点だと思いますが、その次の観点としては、大学の専門性に鑑みて地域との関係を密接にしていくというのがあると思います。今日のニュースでもございましたが、人口動態が、60歳以上人口が25%に達しているとか、18歳以下人口が100万人を切っているとかいうようなこともございまして、積極的な地域への教育機

関としての関わりだけでなく、全国的な傾向としてあるというふうに認識しております。

○矢幡副会長　ありがとうございます。他に何かありますか。

○後藤委員　この資料を拝見して、違和感というか、良くわからないなということを感じました。それは、先ほども話が出ていたと思いますが、「生涯学習」という観点から見たときに、どのように見たらいいのかわからない。というのは、具体的に言いますと10ページ、電気通信大学の工作講座が、「子育ての支援」に分けてあるのだけれど、一方で14ページの桐朋学園短期大学の「東部ジュニア教室フルートを吹いてみよう」が、「社会教育の支援」というような分類がされています。これは、担当の課で連携内容・概要が分類されていて、やっている内容は子供を対象にしたものなのですけれども、縦割りの担当課で分けられたデータになっているのではないかなという感じを受けたもので、「生涯学習」という観点からどういうふうに見たらいいのかなということが分からない気がしました。

○事務局（中島課長）　これは、先ほど芹澤委員から出た話と同じようなことなのかなと思います。私が申しあげましたとおり、各セクションにおいて目標とするところ、何に基づいてやっているのかが違ったり、社会教育系のところが教育としてやったり、私ども生涯学習という切り口から見ていくとそれも該当しますよと区分したりして、どこがやっているから社会教育の連携内容ですよといったくりにしてありますので、そこを掘り下げていって、子供なら子供、今度はターゲット別にフィルターをかけてやってみると面白いのかなというふうには思っていますので、ご意見としてはちょうだいいたします。ちょっとまたこれを深読みできるような形をとると、また、違う見方ができてくるのかなと思います。ありがとうございます。

○矢幡副会長　ありがとうございます。他には。

○高木委員　生涯学習の主人公は一体誰なのか、というところで考えると、やはり、市民の方々かなと考えるわけですね。私はボランティア等を担当している部署なので、誰が主人公なのか、ボランティアに行く人も主人公でもあるし、とつい考えてはしまうのです。この表を見ると、「市民が直接参加をできるもの」と、例えばポスター掲示依頼は貼ってあるだけですけれど、ポスター掲示を見て何かの行動を移す人もいるのかもしれないのですが、各大学との中で市民が市報を見て「あっ、こういうものがあるんだ。行きたいな。」と申し込みをして、参加のできる、要は、「市民が何人参加したの。」、その数値が実は上がってないと、222という実績があっても、市民の参加率が横ばいもしくは下降線であれば、生涯学習が推進されているとは、中々言いにくいのではないのかな、と思うのですね。なので、これだけ数があるので、「市民参加が得られるもの・市民が参加したもの」という欄を設けて、更にその横に実績として細かい端数は良いとして、何十人くらい参加したよという数字が出てくると、実際、市民が大学の連携の中でどういう学びの場があったり、何人くらいの市民が参加しているという一つの指標にもなるのかなと思うので。今年度のはこれで、ということで、今後何か調査をする上では、市民がどれくらい参加ができていたのか、という実際の数字が付け加えられると、より良いのでは。それによって、それがこういう表の中に現れている市民が何を望んでいて、「ああ、これは大勢来ているね。だったらこの方向は広げていこう。」ということも一つの指標にもなるかなと思うので、是非その点を今後の中で

目指していただけると良いかなと思います。例えば11ページ一番上の所のジャグリングサークルの講師を依頼、これは児童館で電通大のP a s s a g e（ぱさーじゅ）※（電通大のジャグリングサークルのこと。）、僕も知っている団体なんだけど、そこに何人の子供たちが来て体験したのか、みたいなのが出てくるとより良いのかなと。そうすると、「あそこで子ども達は良い経験をした。」というのが伝わっていくと思いますので、ぜひその点は、今後のこういう調査をする上では、「市民参加」という部分の数値的な表が付け加わると良いかなと思います。数字にしにくいものがあるというのを読んでいくとわかるので、わかるものに関してで良いし、「市民参加・市民申込みあり」という欄を設けてその後ろに数字、というのが一つかなと思います。

○矢幡副会長　これは、「大学等との連携に係る」ということなので、市民参加してても・してなくても、大学との関わりがあるものが、ガーツと書いてあるような感じ。しかし、皆さん違和感があるのは、我々、生涯学習の推進委員として出ているのだけれども、そこについての区分けがあまりされてなかったのが分かった。今、言ったように「市民参加が何人」というようであれば、分かりやすいのではないかと思いますので、ぜひ、よろしくをお願いします。

○芹澤委員　私も高木さんのおっしゃったことに同感で、これまでされることが、手探りに始めたことはすごく良いことなので、次のステップに行くためには、やはりターゲットのオーディエンスが誰であるか、市民をもっとデモグラフィック※（人口統計学的属性、つまり性別、年齢、住んでいる地域、所得、職業、学歴、家族構成などその人のもつ社会経済的な特質データ。）的に考えて、ターゲットを絞っていかないと、これだけ広く浅くやっても意味がないと思うので。色々広げてきたのは大切だけど、次に行くためには、調布市は人口が23万人、男と女、年齢別に、ここをターゲットにしてこれがありました、と。全部ターゲットには難しいし、一番調布市にとって大切なデモグラフィックな人たち、若い人たちと、今、数字が増えている60代の人たち、その辺を、なぜやっているのかということと、その人たちをターゲットにして、調布市をより良くしているのですとつながっていったら。これはやはり、主人公が見えていないので、ただ、「色々なことをやりました、終わり。」みたいなことで、勿論、やらないよりはすごく良いので、もうちょっとうまく表現されていたらもっと良いデータになると思う。オーディエンスのくくりで、「こういうことをやりました。」と言うと、「ああ、すごい子供たちにやっているな。」とか、「シニアの人にやっているな。」とか見えて、市が貢献しているのが見えて良いかなと思います。

○小川委員　僕は、もっとのんびりとした意見ですが、これは数は伸びていますよね。それは、生活文化スポーツ部、生涯学習交流推進課だけではなくて、色々な人たちがツーカーで、大学の窓口の人たちと話せるようになったということで、ポツと色々なアイデアが出た時に、「今度こういうのをやっていただけませんか。」とか、お互いに言えるようになってきていて、離陸し始めたのだらうなということで、この今の時期を捉えています。その後どうするか、皆さんが色々ご意見を申しあげただけで、調布市の中における生涯学習推進の重要度というのがなんか難しい優先度合いがあったりして、専担のセクションとして生涯学習があるので、「他の人はやらんで良い。」とか、「うちが全部リードする。」というのは、どうも力学的にできないという位置づけになっていると思いますし、それを敢えて無理して、「じゃあ、公民館まで全部統一するぞ。」という



ようなところまではできないというのが現実だと思う。なんていうのかな、玉石混交というのか色々なものが集まっちゃうと、この表は、「大学とどういう関係を持っていますか。」と、大学というのは、地域、調布市における大事な財産だから、そういう意味で生涯学習を考えるときには、お互いにwin-winの関係でやりましょうよということで始められて、まあ色々なものがある。いわゆる「学校の先生・保育園の先生になるために、実習しないといけないから、受け入れています。」みたいな、それだつてとにかく関係だからね。この後どうするかは、皆さんが意見をおっしゃっていると思うのですが、最後まで色々な関係は集計すると出てくると思うので、さっきの人数のご提案は確かにあると思うのですが。あまり細かく、僕は敢えて質問したみたいには、「社会教育って何？」と聞いたのだけど、これをやると担当課が訳が分からなくなるので、もっと言うと、「この統計は正しいのか。」みたいな、そのチェックに走ってしまい、もう少しそこは大局的というか、アバウトに捉えていただいてやっていかれたらどうか。色々なご提案の中でどういうものを伸ばすかというときに、「調布市らしい生涯学習を」というときのアイデアは、生涯学習交流推進課が考えてやっていくと、皆さんが期待するような「調布市らしいね」というところが出てくるのではないかなと思うのです。調布市民でありながら、実は調布市をどういう町にするのだけ？忘れていますが、生涯学習のことについてはあった気がしますが、それについて一致するかどうか。例えば城西大学で、商店街のCM作ったというのがありましたよね。「あれ？調布市って『映画のまち』だったかな。」というトークが、そういう意味で大学連携の一つの切り口に「なんか映画ってありますか。」と。どうしても桐朋だと音楽が、外語大は外国語が、電通大はロボットとか何とか、依頼するときに依頼する市の方自体がイメージを持ってやっているのだけど、「調布市って『映画のまち』だよ。」という切り口で何かありますか、と。他の切り口で調布市は一杯あるのですよね、そういうのを利用してその面でも大学連携していますよ、とやっていくといいのではないかな。仙川の劇場を使って何とか、調布市らしいなんかモットーとか、別に今の市長とか言うのではないのですよ、市の長期的な目標みたいなところに合致するようにね、カリキュラムを考えてアイデアを出されたら。そうすると意外とここにいる皆さんのさっきのような部分にも触れて、意外と触れてみたら掘り起こしていない、例えば講義してもらいたいっていう部分もあるのだと思うので、そんなことをご提案しますね。

○矢幡副会長 はい。ありがとうございます。

○森山委員 私もこれは大変だったと思いますし、各部、所属部は、それぞれで役割があるので、それはそれなりにバラバラになってもしょうがないかなという気がいたします。生涯学習として何を今後していくべきかという部分で、勿論、数字という部分も大切ですが、前にも申しあげましたが、ちょっと良かったなというのは、今後も毎年何度もやっていただく。そうすると、どんどん興味って増えて深くなってくると思いますので、それはそれ、これは結果として苦労されたのだなという気がいたします。今後のことで、子どもも少ないという中では、もう少し深く掘り下げて、本当に市民が何を望んでいるのかを捉えてやっていただければいいのではないかな、という気がしますけれども。以上でございます。

○矢幡副会長 ありがとうございます。皆さんから貴重なご意見をいただいたというところで、

次の議題へいってもいいですか。

○田口次長 皆さんからいただいた提案・ご意見は、貴重な話で、しっかり受け止めまして、  
どういう形になるか分かりませんが、調整させていただきます。

○矢幡副会長 また、経過のご報告をよろしくお願いします。

それでは、続きまして、報告事項に移らせていただきます。「平成28年度の生涯学習交流推進課の事業について」に進みます。事務局よりお願いいたします。

○事務局（神田課長補佐） よろしくお願いいいたします。では、資料の2をご準備いただけますでしょうか。タイトルは「平成28年度課別予算（案）の概要」と書いてありまして、まず、3ページをご覧ください。私ども生涯学習交流推進課は生活文化スポーツ部に所属しております。平成28年度の部の経営方針をまずご紹介させていただきます。生活文化スポーツ部は、生涯学習交流推進課を始め7つの課があります。その課については下に円の形で表示されていますけれども、文化振興課、協働推進課、男女共同参画推進課、スポーツ振興課、産業振興課、農政課です。似顔絵がありますが、こちらが部長の八田です。では、部としてどういう方向性を持っているかと申しますと、「個々のミッションを担いながら、調布市の各地域・個人・団体・企業用の方々が生き生きと活動するサポート役、コーディネート役として横断的な取組と積極的な情報発信、創意工夫・改善に取り組み、より良いサービスを提供できるように取り組んでいく。」というのが、部の方針になっています。

また、もう1枚めくっていただきたいのですが、4ページに、今紹介した7つの課がそれぞれどのような事業等を担っているかという一覧になります。少しご紹介します。文化振興課は、姉妹都市木島平村以外にも都市間交流を行っています。消費生活の関係、国際交流の関係、また、文化・コミュニティ振興財団との連携を図っています。協働推進課は、地域コミュニティの推進、自治会や地区協議会といったもののほか、地域の活動拠点のふれあいの家や地域福祉センターの管理運営を行っています。男女共同参画推進課は、国領の市民プラザあくろすの3階にありますけれども、男女共同参画に関する事業やDVの被害者支援を行っています。産業振興課も役所の方に課はございますけれども、産業労働支援センターが同じようにあくろすの2階にあります。産業振興課は、若者を始めとする雇用・労働の支援ですとか、商工業の振興、あとは、中心市街地の活性化、映画のまち調布の推進を行っています。農政課につきましては、都市農業経営の育成支援ですとか、都市農業を生かした食育の推進等を行っています。スポーツ振興課につきましては、市民スポーツの活動支援ですとか、FC東京とのパートナーシップ、そして、2020年の東京オリンピック、パラリンピック等の機運醸成、スポーツ施設の整備等を行っています。

次に5ページをご覧ください。生活文化スポーツ部というのは、文化・コミュニティ振興財団ですとか、体育協会、国際交流協会、文化協会、商工会、観光協会というような各団体と協力し、市民の皆さんのために施策を推進している部になっています。また、文化施設、コミュニティ施設、スポーツ施設など40を超える公共施設の管理運営等を行っています。皆さんに安心して安全に使っていただけるように、施設整備、維持管理に努めています。先ほど施策のお話が出たところですが、この5ページの真ん中のところに、修正基本計画の31あるうちの11施策

を生活文化スポーツ部が担っておりまして、2020年度の東京オリンピック、パラリンピック大会ですとか、ラグビーワールドカップなどの大きな大会を控えておりまして、「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」を行いましたので、それにつながる取組ですとか横断的な連携に努めていくというのが、私どもの部の経営方針になっています。

次に7ページをご覧くださいと思います。我が生涯学習交流推進課は、今年度、どんなことを担ってやっていこうかというところの基本的な目標と方針が掲げてあります。4つの柱の事業があります。一つ目が、生涯学習振興プランの推進です。この推進協議会において皆さんに協議検討いただいているのですけれども、生涯学習に関連する事業の実施状況の検証ですとか、今後の事業の取組に向けたポイントを整理しながら、平成24年度にできた生涯学習振興プラン、その現状把握から今後におけるプランの方向性を考察して、更なる効果的な生涯学習の振興につながるよう努めていくことが、一つ目の柱となっています。二つ目は、生涯学習情報の充実となっております。生涯学習は、公民館、市民活動支援センター、地域福祉センターなど色々な所で市民の方は活動しておられるのですが、そうした皆さんに生涯学習情報を提供すると共に色々な情報の入手も行っていくということで、私どもの課に2名、生涯学習まちづくり推進員という専門職員がおり、積極的に外に出て行って情報の提供と情報の入手に努めていこうということで、アウトリーチを積極的に行っていこうという方向性を持っています。それから、「さがす見分かるシステム」という生涯学習のグループ、団体やイベント等を紹介するホームページを持っているのですが、それを市民活動の入口・玄関口として、皆さんに更に利用していただけるように、地域のコミュニティサイトとしてポータルシステム化を行うような形で改修の準備を進めています。地域の掲示板を作って、地域の情報を見ることができるようで集約していく方向で進めています。「必要な情報が必要な人に分かりやすく届く」ことを目指して行ってまいります。それから三つ目が、学習活動の支援になっています。色々お話が出てきておりまして、60代の方を中心にいわゆる「アクティブシニア」と言われる世代の方にサークルを体験していただいたり、地域のお仲間づくりや生きがいつくり等、少しでもお役に立てるように「地域デビュー事業」というのを展開しております。皆さんの生涯学習活動のきっかけづくりという形で支援を行っています。それから、こちら（文化会館たづくりのこと。）の建物の11階に「みんなの広場」というスペースがありまして、無料でテーブルですとか壁面の貸出を行っておりまして、そうした貸出をすることで団体活動の支援を行っています。それから四つ目ですけれども、今ほど出ておりました大学との連携についてです。市内の4校、市外の3校、7つの大学の双方にとってメリットのある事業を展開していくということが書いてあります。今は7つなのですけれども、もう少し発展的に広げていきたいという想いもありますし、市長からも「様々な分野の大学との連携を深めてください。」と言われておりまして、美術系の大学と中々ご縁がなかったところ、昨年度から武蔵野美術大学と一緒にワークショップ形式のものをやり始めております。今年も8月に親子で参加できる身近な生き物を観察しながらペーパークラフトをつくるというような事業を企画しております。それから近隣ですとICU・国際基督教大学は、非常に広報活動が盛んでして、私どもに、事業のお知らせをいただき、チラシを含めて事業内容を市のホームページや市報等に掲載

していきまして、協力関係が深まっております。まだ共同で事業を行っていくところまでいっておりませんが、近々そうした話にまで発展していけるかなというところはありません。中々、当課が市役所全体をリードして大学連携の調整役をするということは難しいのですが、少なくとも今まで切り口を持っていなかった大学と、少しずつでも連携していけるようにお話を打ち合わせていたりして、小さなことからコツコツ積み上げているような動きをしているところです。基本的な目標、四つの柱についての7ページの説明は終わります。あとは、他の課が何をしているのかについては、こちらの資料によく書かれておりますので、ご覧いただければと思います。

そしてもう一つ、事務報告書の抜粋ですが、先ほど未定稿で取扱注意ですが、ご紹介した資料があったかと思えます。6月30日現在「平成27年度事務報告書抜粋」をご覧ください。これ以降、再度確認を入れておりまして、確定版の際には、多少、皆さんのお手元に配らせていただいたものとは数字が変わっているものがありますので、ご理解いただければと思います。生涯学習交流推進課は、大体2000万円くらいの予算を持っている課になります。大きくどんなことに使われているかと言いますと、先ほど申しあげた生涯学習まちづくり推進員の人件費が、550万円くらい、それからポータルシステム化に向けて準備していますと申しあげた「さがす見つかるシステム」の委託料が1200万円くらい、コミュニティFM放送に毎週日曜に放送枠を持っている「生涯学習のススメ」という10分の番組の作成委託料が170万円くらい、ということで差し引きしていただくと、事業費がほぼ無いような課になっています。というのは、「生涯学習」というのは、私どもの課だけでなく、市役所全体で行っているというように理解してください。その中でも、少ない事業費で行っている事業もありますので、そこを中心にご紹介させていただきます。

昨年度実施した大きな事業としては、市制施行60周年ということもありましたので、1ページ目の下の方から2ページ目にかけて、連携大学との事業ですとか大学定例会について書いてあります。特に2ページに書いてあるのですが、「中学生のための大学一日体験入学事業」を行いました。今までも推進協議会の中で報告させていただいておりますけれども、協定7大学全部で実施し、207人の方に参加いただきました。今年度も引き続き、「中学生のための大学一日体験入学事業」は実施していこうと計画しておりまして、担当がそれぞれの大学に掛け合いながら、秋の実施に向けて企画を練っているところです。そして少しめくっていただきますと、5ページになります。市民の方とどのような事業を一緒に行っているかというところで、「地域デビュー歓迎会事業」があります。芹澤委員に以前こちらの実行委員になっていただいていたのですが、分科会として、4つの講座をさせていただいています。この内容は、市民の実行委員が企画して実施した内容になっていきまして、市のバスを利用して歴史バスツアーや料理教室を行っています。6ページには、「生涯学習体験発表会」というのがあります。生涯学習のサークルが沢山ありまして、平成27年度は779の登録団体があるのですが、お声掛けをして、自分たちの普段やっているサークル活動の場に市民の方に参加していただいて、気にいったら入会してもらい、入会していただいた結果、3月に発表会として参加してもらった方の発表を市民の方に見ていた

だくという、これが「生涯学習体験発表会」になっています。続けて9ページを見ていただけますでしょうか。これも市民との協働事業ですけれども、「中高年のための初心者パソコン教室」の実施です。これはもう10年近く同じ調布パソコンサークルという団体と協働でやっているパソコン講座ですけれども、調布市立の6中と7中のパソコン教室をお借りして、パソコン教室を実施しております。それから9ページの下の方に「タブレット端末体験講座～さわってみよう iPad」とあります。近年、タブレット端末を希望する方が増えてきておりまして、特にiPadの利用が多いということで、2年ぐらい前から試行的に実施したところ、倍率が8倍から9倍ということで落選する方が多く、「もっとたくさん講座をやってほしい。」というご要望を頂戴しましたので、今は定例的にタブレット端末講座を行っています。そして、今年度もいくつか講座を企画し、実施を予定しております。それから最後のページ、10ページですけれども、「市民団体のためのパソコン講習会」です。昨年は、参加者が3名と少なかったのですが、団体の交流も含めて自分たちのサークルを周知するためにパソコンを使って、もちろん操作を含めて、名簿ですとかチラシ作りなど、サークル活動にパソコンを有効に使っていただくための講座ということで実施しています。こちらは、やあやあネットという市民グループと一緒に数年前から継続的に実施している事業です。今、申しあげたのが、市民団体との協働事業です。あとは、この事務報告書には、11階にあります「みんなの広場」の利用状況が書いてあります。

それからもう一つ、当課として主要な事業に「出前講座」があります。そのご紹介をします。7ページをご覧ください。毎年、「出前講座」ということでメニューを作りまして、市役所編は職員がそれぞれの課の事業などを市民の皆さんに分かりやすく紹介するために行っていて、お近くの自治会館ですとか、マンションの集会室、近くの公共施設に職員が出向いて行って、5名以上が集まると団体とみなして、講座を実施します。昨年の申し込みは、71件ありまして、実施が65件でした。その月別のものと講座別実施状況ということで、どういう内容の講座のリクエストが多かったのかということで、一覧が7から8ページに書いてあります。今、やはり人気がありますのは、「消費・生活・暮らし」の分類の中に入っています「みんなで進める災害対策」ですとか、「マイナンバー制度について」が、かなり多かったです。それから、消費生活の中でも「学んで対策！賢い消費者になるために」というテーマのリクエストが多かったです。あとは、ちょうど駅前の工事をしていることがありましたので、「良好な市街地をめざして」など、「まち」がどのように変化するかお話を聞きたいというリクエストが多かったです。

以上、雑駁なのですけれども、私の方からの説明は以上になります。

○矢幡副会長 ありがとうございます。皆さまからご質問などございますか。

○宮寄委員 「さがす見つけるシステム」というのに結構お金をかけて改修されたりしているのですが、これがある意味で市民がどういうことに興味を持っているかという情報を獲得できるチャンスだと思うのですが、どういうキーワードで皆さんが検索をかけられているのか、そういう集計のデータはお持ちなのですか。

○事務局（神田課長補佐） そうですね。毎月、運営会議というものを行っておりまして、どのページからお客様が検索して入ってきたのかというのは、数字を把握しておりまして、今は、

サークルを探す方も多いのですが、イベント情報を見たいという方が多いです。「今日は何をやっているのか。」「今週末は何をやっているのか。」ということで、イベントがあるなら参加してみたい、それを探す便利なツールになっているようです。自分で興味のある、例えば読書の分野に興味があったら、ブック倶楽部ですとか読み聞かせのグループを探す方もいるのですけれども、とにかく今は、イベント情報から入ってくる方が多いというのが特色です。

○宮寄委員 一度（「さがす見つかるシステム」を）試してみて、「環境問題」というキーワードを入れると、何人かの先生の名前が挙がってきて、その先生に連絡を取るという話なのかなと思って、使ってみたのですけれども。

○事務局（神田課長補佐） そうですね。勿論、グループ・サークル情報もありますけれども、人材バンクの機能も持っていて、例えば、宮寄委員にも登録していただいたとして、宮寄委員はこういう経歴の方、こういう得意分野があります、こういう講座だったら講師ができますよ、という情報も載せています。直接、ご紹介いただきたいということであれば、お電話番号等を仲介させていただいて、教えています。例えば、PTAの講師に来ていただきたいということで、アレンジメントしたこともあります。

○宮寄委員 そういう使い方もできるのですね。

○事務局（神田課長補佐） はいできます。……平成27年度にも（「さがす見つかるシステム」を）改修したのですけれども、パソコンだけでなく、スマートフォンとかタブレット端末で見ていただく方も多いので、レスポンスデザインといって、画面の中や長さに合わせて画面が縦長になったり、細長くなったりできるようにしたのです。パソコンだけで必ずしも見る時代ではないので。以前は、パソコンと同じ画面がギュッと小さくなったものを、指で伸ばして広げていただき文字を大きくして見ていただいたのですけれども、それでは不便でしょう、ということとリクエストが市民の方からも入りましたので、そういった改修を重ねながら、今、やってきているところです。

○矢幡副会長 ありがとうございます。他になにかございますか。

○森山委員 冊子自体（「サークルガイドブック」のこと。）は、まだ作っているのですか。いただけるのですよね。

○事務局（神田課長補佐） はい。今、お話しいただいたのは、この冊子のことですよね。今年度のものの下刷りができてきていますので、再来週くらいに皆様にお配りできると思います。市報でご案内します。

○森山委員 うちの倶楽部（「調和SHC倶楽部」のこと。）ですけれども、やはり、パソコンを使えない人も結構いらっしゃるのですよね。そうすると、うちの倶楽部にある種目は、うちの倶楽部の（サークル）を勧めているのですけれども、無いものは、冊子をもとに一緒に探して、ご案内しているのです。是非、こちらの市民活動団体リストも置いて頂けるとありがたいと思っています。

○事務局（神田課長補佐） 森山委員からお話しいただいたとおり、まだ、紙媒体を便利に使っていただいている方もいます。パラパラ見ることができるので持ち歩いていただくと、気にな

ったところの（サークルの登録）番号を言っていただくと、すぐに検索できて、連絡先の紹介やご案内ができています。昨年は、途中で在庫が無くなりまして、増刷版を出しました。こちら（「市民活動団体リスト」のこと。）は、高木委員がいらっしゃる市民活動支援センターに登録されている活動団体リストなのですが、在庫が足りなくなったので、「みんなの広場」にも先月持って来ていただきました。やはり、インターネットだけではなくて、紙のものが良いという方もまだまだいらっしゃいますので、継続して発行していきたいと思っております。ありがとうございます。

○矢幡副会長　　ありがとうございました。

○後藤委員　　イベント関係のことで「さがす見つかるシステム」を使ってみたのですけれども、印象としては大きなイベントが多いかなと思います。例えば、私は第三小学校地区のまちづくり協議会に参加しているのですけれども、西調布祭りがあるとか、そういう小さい部分というか、その地区のイベントとかは載ってなくて、「もっと自分たちでもっとアピールしないといけないな。」と感じました。載っていないのは、載せようとしていかないと、自分たちでPRすることだと感じたのですけれども。そういう小さいくくりでの地域に根付いたお祭りやイベントが、もっと一杯、掲載ができていくといいなとすごく思ったので……。協働推進課を通じて、になるのですか。どういうふうにしていったら良いか……。

○事務局（神田課長補佐）　　そうですね。本当に有り難い良い意見をありがとうございます。やはり、そういった意見が多いのですね。そういったこともあり、（「さがす見つかるシステム」を）地域のポータルシステムとして生まれ変わらせていきたいと思っております。地区協議会の情報とか、自治会の情報とか、地域のお祭りの情報など、掲示板機能を使って、すでにチラシをお作りでしたらペタッと貼れるような形で掲載し、誰でも見に行けて、また、地図からお住まいの地域をポチッと選択すると、地域の情報が集約されていてパッと見られるようなシステムとなるよう改修を進めております。こちらで検討している内容と後藤委員の意見が合致していて、嬉しい思いで発言を聞いていたのですが、正にそれを開発していこうとしているところです。今年度は、まだ難しいですが、来年度以降は、ご自分の地域の情報が見えるような形で、皆さんにも使って頂けて、発信していけるような、双方向性のあるサイトを目指していきます。持ち帰らせていただいて、協働推進課にも話しておきます。特に地区協議会も色々と活動しておりますけれども、その内容をツールを使って中々発信しにくい部分もあるようですので、特に若い世代はネットを中心にしてくれていますので、子育て世代のママなどに情報をお伝えしていくのに有力な媒体になっていくのかなと思っております。

○矢幡副会長　　ありがとうございます。他にご意見等ありますでしょうか。それでは、「その他」になりますけれど、皆様から何か議題・ご意見があれば、いかがでしょうか。特にないのですか。言いたいことがありましたら直接、言っていただいても構わないと思います。市民として。

○宮寄委員　　検討事項と言うほどのことでもないのですが、災害の時の大学との提携というのが、いくつか入っていたと思うのですが、電通大として肩身の狭い思いをしているところもあるのです。社会連携センターとして、東日本大震災の時、あまり貢献していなかったと市民の方からご

指摘を受けているのです……。白百合女子大学とは、何か提携をしたと聞いているのですが、具体的には何を。

○事務局（中島課長） 場所を使わせていただくとか、井戸水を使わせていただいたり、大学のその特性に応じてということのようだと思います。ちょっと中身は詳しくは探してみたいと思いますけれども。

○宮寄委員 私立大学とは結びやすいのですか。旧国立大学とは何らかの意味で……。

○佐野委員 それはないはず。

○宮寄委員 もうそちら（「東京外国語大学」のこと。）では、何かやられているのですか。

○佐野委員 府中市で伺ったことですが、農工大は、避難所指定で、本学も広域避難所指定にしてほしいと言われているのですけれど、市の側から。ただまあ、かなり府中市の端にあるということと、大学内の設備の問題等もございまして、ちょっとそれは進んでいないのですけれど、国立大だから特に、そういうことではないと思います。

○宮寄委員 うち（「電気通信大学」のこと。）でいうところの、管財の部署になるのかもしれませんが、そういうところと市とがおそらく話を進めているのでしょうか。

○田口次長 防災会議とかもありますし、総合防災安全課が、地域のそういう大きな施設とは、お話をしていきますので、それはまた。

○矢幡副会長 ありがとうございます。というところで、皆様からこれ以上はなさそうですので、事務局にお戻しいたします。

○事務局（中島課長） 今から事務連絡を二点いたします。本日の会議録は、ホームページ上の公開をさせていただきます。委員の皆さんに発言内容を確認していただいた後に公開します。次に、次回の協議会は10月下旬を予定しているところです。会長とも日程調整し、ご通知は早目に差しあげます。事務局からは、以上でございます。

○矢幡副会長 ありがとうございます。これで本日の議題はすべて終了することができました。拙い司会進行でしたが、次回は、会長もいらっしゃると思いますので、より広い視野からのご意見が頂けると思っております。

それでは、みなさんありがとうございます。これをもちまして、第4回生涯学習推進協議会を閉会いたします。

——了——